



SFS通信

2012年(平成24年)3月25日発行

日本ボーイスカウト新潟連盟
スカウトフェロシップ委員会

編集長 杉山 剛

〒959-2658胎内市西条602-11

TEL & FAX 0254-43-4879

事務局 〒951-8052 新潟市中央区下大川前通4の町

TEL 025-229-5454 FAX 025-229-5446

SFS委員会の新役員決定 委員長 杉山 晃

2012年・・・私達を巡る環境は、日本を始め世界に大きな改革の流れが始まりました。「激動する時代」に於けるスカウト教育の「考え方・基本理念」を1世紀の長い年月にも変えることなく、今尚世界中で高く評価され、約3000万人が参加しています。

SFS委員会は少子化、スカウト数の減退傾向(量より質)にある県内スカウト活動に、多少なりとも役立つよう裏方から支援する取り組みを行い、設立の目的である県内スカウト活動を支援する裾野の拡大に努める所存であります。これまで培った知恵を出し合い、SFS委員会活動に各位のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

第23号でお知らせしていました役員の改選は、昨年11月20日から立候補受付を始めました。自薦はありませんでしたが、各地区からの推薦をいただき、役員選考会議で審議の結果、新役員4人及び現役員5人合計9人の新体制が決定しました。更に、退任される高橋・遠藤・杉山の3氏には今後ご指導いただくことをお願いし、新たに相談役として就任していただくことになりました。

下表の態勢で新年度のスタートとなります。健康で明るく楽しい運営をお願いいたします。

委員長	星 栄一	中越地区	長岡第1団	留任
副委員長	藤塚 大造	新潟地区	新潟第7団	留任
副委員長	杉山 剛	下越地区	中条第1団	留任
事務長	斎藤 真憲	新潟地区	新潟第11団	新任
会計	森田 由夫	新潟地区	新潟第9団	新任
監事	鈴木 正	中越地区	長岡第3団	新任
幹事	小林 敏勇	中越地区	長岡第1団	留任
幹事	佐藤 英行	下越地区	中条第1団	新任
幹事	松矢 光一	上越地区	上越第3団	新任
相談役	杉山 晃		新潟第16団	新任
相談役	高橋 剛		新発田第1団	新任
相談役	遠藤 安一		長岡第1団	新任

SFS通信 担当	
編集長	杉山 剛
編集委員	星 栄一
編集委員	斎藤 真憲
編集委員	杉山 晃

最後に 平出 正栄、金沢 貞夫両氏のご逝去に対して、謹んで哀悼の意を表します。

第3回役員会

2012年3月17日(土)新潟テルサにおいて役員会を開催し、新年度役員体制を決定しました。新旧役員は松矢委員を除き全員参加し、役務分担の確認を行いました。その後昼食会で懇親の場を持ちました。



就任ご挨拶

スカウトフェローシップ運営委員会

委員長 星 榮一



このたびは、図らずもスカウトフェローシップ(以下SFSと略記)運営委員会の委員長をお引き受けしなければな

らなくなり、多少とまどっております。前任の杉山晃委員長は、平成14年にSFSが設立された時から長期にわたり初代運営委員長として、名委員長ぶりを発揮されて来られました。私は到底、杉山前委員長に及ぶわけには行きませんが、お引き受けしたからには全力を尽くしたいと思いますので、よろしくご協力お願い申し上げます。

SFSの目的は、県内スカウト運動の振興に寄与することと共に、SFS会員の相互理解と親睦を図ることとなっております。今後の活動としては、SFS会員自身が楽しめる活動を加えて行きたいと思っております。例えば、平成27年に山口県で開催される、第23回世界ジャンボリーの団体見学ツアーなどはいかがでしょうか。その他、会員の皆様のお知恵を拝借して、可能な限り楽しめるSFSにして行きたいと考えておりますので、どんどんご意見をお寄せ下さい。

次にSFS運営委員会の持ち方ですが、メールやFaxを利用して、会議として直接集まる回数を減らして行きたいと考えております。その代わりに、会員の親睦やボーイスカウト運動のPRなどに集まりたいと思っております。また運営委員会の役務は、運営委員会委員全員が分担してやって行きたいと考えております。

最後になりましたが、杉山晃前委員長、高橋剛・遠藤安一両副委員長には、長期にわたり大変ご苦勞さまでした。今後はSFS運営委員会の相談役としてご援助いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

県連理事会(1月25日)報告

16NJについて

参加予備申込を受け、参加者割当仮人数が報告されました。

	BS	VS	指導者男
予備申込	118(21)	31(3)	9
仮割り当て	108	12	<3隊編成>

長期間野営のため、若手の参加が厳しいようです。我々の出番ともいえます。健康に不安のない方は、ご検討なさってはいかがでしょうか。

山口への移動方法

全行程バス利用案や、一部船利用案などを検討されているようです。肉体的そして経済的負担を考慮し、もちろん資材の輸送など、事務局は、大仕事に取り組んでおられます。

外国スカウトのホームステイ

16NJ終了後県連派遣団と一緒に新潟に来る外国スカウトの人数はまだ決まっていません。決まれば、具体的な受け入れ準備が始まります。

追加登録

この25号がお手元に届く頃は、もう登録期限(3月15日)が過ぎていますが、万一未了の団がありましたら、事務局の方へお声掛けをお願いします。登録及び入金が確認されないと、保険が開始されないのご注意ください。

行事予定

GAT	4月28日(土)29日(日) (みつき沢)	
BSラリー	6月24日 (新潟市)	
CS・BVSラリー	9月9日(日) (中越地区)	
指導者研修隊	3月3日(長岡市)	BS講習会 4月8日 下越
WB研修所(BS)	5月3～5日	7月8日 上越
WB研修所(VS)	10月6～8日	11月10日 新潟
安全セミナー	5月6日(日) (五頭連峰少年自然の家)	11月25日 中越

進歩委員会

23年度の菊・富士スカウト認証は下記のとおりです。各団スカウトの育成に尽力してください。

【菊】加茂第1団 藤田 一輝

【富士】新潟第15団 鈴木 依未加

24年度では VS部門の強化と、宗教章信仰奨励章への取組を模索していきます。

組織拡張委員会

県連ホームページを、もっと活用する様にしていきます。そのためにも、各団からの情報提供をお願いします。また、スカウト人口の増加を目指し、団委員長会同を計画しています。

新指導者訓練体系は平成24年度スタート

詳しい資料があります。この紙面では紹介できませんが、ぜひお近くの理事の方から説明を受けてください。スカウト誌3月号に具体的な訓練コース開設予定が掲載されています。

SFS通信は県連ホームページにも掲載されています。

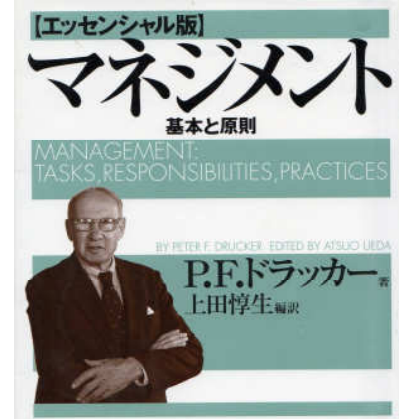
必要な記事はダウンロードしてお使いください。

BSのリーダーがドラッカーを読みました

中条第1団 BVS隊長 杉山 剛

今、話題の「ドラッカー」を読みました。予想以上に面白かったので、皆さんにお薦めします。多くのことを学びました。自団の活動に生かすべく、これから取り組んでいくつもりです。ご参考までにまとめてみました。ご笑覧ください。

私の問題意識は、井上理事長が総会でおっしゃった「こんな素晴らしい運動が何故成果にむすびつかないのか」という言葉と同じです。自分が今、活動している内容で本当に良いのだろうか、との思いです。それに対する回答になると思う事項のみ、まとめました。皆さんもぜひ原本の逐条読みをなさってください。



マネジメントの役割

- ① 組織特有の使命を果たす。

BS活動の使命: 青少年教育を通し、より良き社会の実現に貢献する。

この表現では、具体的な活動に結びつかない。成果に繋がる具体性が必要だ。

しかし、各団それぞれの思いがあるはずだから、団毎に具体化することが良いと思う。

- ② 従事する人たちを活かす。(コミュニティとの絆を手にし、自己実現を図ることができる。)

指導者数の減少はこれに反している。魅力的でない役割と評価されていると受け止める。

企業とは何か

- ① 企業(事業)の目的は、顧客の創造である。

BSにとっての顧客とは何か?

- ② 企業の機能は

1. マーケティング: 本当に良いものなら販売は不要。「顧客が求めている満足はこれだ。」と言えること。

顧客をしっかりと見つめて、初めて答えが出る。

2. イノベーション: より良くなること(より大きくならなくてもよい)

顧客のニーズにあっていない。知られていない。

こんなに良い活動・・・独りよがりになってはいないか、見直したい。

事業は何か

- ① 顧客はどこにいて何をかうのか。顧客は、常に一種類ではない。

①スカウト・・・活動に継続参加する。そのためには、楽しさが不可欠。

②保護者・・・子供の健全な成長に役立つ活動(サービス)を購入している。

③育成会・地域社会・・・BSが、より良い社会をつくるのに、有効な活動をしていると認めるから、資金を提供する。顧客が満足して、初めて収入を得る。

我々は、この3種の顧客に対し、的確に対応してきたか?

- ② 事業は何か。・・・環境の変化によっても変わってくる。

環境の変化は、危機だけではなく、機会としてとらえなくてはならない。

BSが青少年の教育に携わることは不変であるが、その内容は環境の変化に対応すべきである。

大震災による価値観の変化はビッグチャンスであり、自活技術も見直されている。

家庭・社会の教育力低下も、BSにとってはチャンスである。

体に働きかけるもの(生活の知恵・労働)・・・訓練の内容に反映させる。

感謝の心(信仰心)・・・信仰奨励章に注力することが重要

チーム球技の分かりやすさは、見習うべき。→進級制度をもっと活用しなければ

事業の目標

- ① 事業の立ち位置に集中

ロープワークが主ではなく、B-ラストメッセージが集中すべき場所。ロープワークはラストメッセージ

実現のためのものであるべき。中村知先生の言われる”第3の道”である。

市場での地位……市場シェアは、重要(限界的な存在にならないための下限がある。)

異年齢集団を維持する、最低の人数は必要。地域で認知される規模としても、一定の人数は必要。

② 経営資源獲得の目標

衰退の最初の兆候は、有能でやる気のある人間に訴えるものを失うことである。

BSにとっての資源は、指導者および資金。大人にとって魅力的な仕事でなければならない。

戦略計画

明日のBSのために今日何をするか。単なる予測ではない。

私たちの今日の活動が、あるべき姿に繋がっているのか。マンネリということばを思い出すこと。

公的機関不振の原因

公的機関は予算により運営され、企業は満足に対する報酬により運営される。

公的機関に欠けているものは成果であって、効率ではない。

教育に携わるBSは、育成団体が強固であるほど公的機関の性格を帯びやすい。

満足に対する報酬だと、胸を張れる団がいくつあるのだろうか。

BSの成果はなにか。顧客に満足を与えたことをどう評価するのか？

成果を定義しなければならない。(成果を測る物差しが必要)

登録人数は、あくまで二次成果。一次成果は、いかに良きスカウトを育成したか。



知的労働者

知的労働者、それに対するマネジメントは、まだ出来上がっていない。

指導者が生きがいを持って取り組むことができているのか。

指導者という仕事は、重荷であり祝福でもある。また社会での存在意義を、確認できる場である。

責任により、事業に参加している。(責任とは、成果を出す責任)

成果とは何か に共通認識が得られていれば、目標管理ができる。それにより、コミュニケーションが可能となる。

信仰心(感謝の心)を持ち、人の役に立ちたいと思い、実際に役立つことのできる青年を送り出す。

……ここからは ①信仰奨励章をもち ②1級スカウト章を持ち ③できれば菊章も持つ

このようなスカウトを、対象スカウトの何%送り出したか

指導者にとっての賞罰とは……

地域・父兄からの評価……活動成果についてくるもの

指導者間での信頼の蓄積

マネジャーとは成果に責任を持つ人

自団・各地区は、誰がマネジャーなのか。自覚している人がいるか、がポイント。(呼称は別として)

日本企業のマネジメント成功例に学べ

責任の分担、研鑽継続、次世代育成

成果を上げるためには指導者研修が重要……忙しい現役でも参加できるスケジュールにならないか。

中条1団でのこれからの取組:

- ①活動成果を定義する。(信仰奨励章、1級スカウト・菊スカウトの上進率に目標設定 CS課程での目標設定)
- ②保護者との話し合い……何を求めているか
- ③育成団体とのコミュニケーション(報告書頻度増 年報⇒季报)
- ④地域活動に、指導者としての露出増
- ⑤指導者の研修強化
- ⑥団内での話し合い(我々は何をしようとしているのか)……これを最初に行う。

リレー
寄稿

「スカウティング・フォア・ボーイズ」を 心の支えに

阿賀野第1団 団委員 佐藤 巖

近況

BS新潟連盟諸兄各位におかれましては、いかがお過ごしでしょうか？ご無沙汰をお詫び申し上げます。

SFSに入会をしようとしていた矢先、嫁いだ娘がウィルスによる脳障害を発症。以後、娘と孫(女兒)二人を在宅介護する生活となり、3年が経過しました。当時、新津カトリック幼稚園の年長児だった上の孫が、4月から水原小学校3年生に。下の子は1年生になります。最初は水原～新津2往復と新発田県立病院1往復、1日100kmを走ること約1年。水原～新津2往復2時間の送迎も、この3月で解放されます。娘の状態は安定してきましたが、まだ日常生活には戻れず、当分の間は我が家で母娘の世話をする状況です。

そんな事情で、女房だけに娘親子の世話を任せることもできず、山やスキー宿泊旅行などは、でき難い生活が続いております。

現在は、ボーイスカウトの経験や趣味を活かし、現役時の理想を継続した活動しております。自然保護団体「瓢湖の白鳥を守る会」の事務局、小学生の総合的学習支援、学校ボランティア、タウン紙の編集などの傍らハーモニカの介護施設での演奏を楽しみ、むしろ現役時より多忙な毎日です。

最近、近親者や友人知人の訃報や発病の報を聞くことが多くなりました。病気以外にも、自然の災害や事故もあります。心配ばかりでもいけません、いつ、なにが起こるか分からない時代です。自らの身辺整理も含め概ね70歳を目途に、今持っている肩書きを整理していきたいと考えております。身軽になり、迷惑かけっぱなしのかあちゃんに孝行したいとソツと思っています。

BS活動について雑感

私は、40代後半で体力的(岩場での3点支持ができなくなった)に限界を感じ、BS隊長を辞めました。直後は団の大きな行事などで声がかかったときだけ、手伝っておりましたが現在は、まったく関わっておりません。焚き火が楽しみだった県連GATの奉仕も、できなくなりました。要請があり何かできることがあれば、手伝う気持ちはあります。しかし、責任を負うこと、継続すること、役を担うことなどは、いまは受けることができません。

「班制度」と「進級制度」はボーイスカウトの2大特徴で、これを無くしたらボーイスカウト活動と言われたいいいます。その根幹をなす「班制度」が、成り立たない社会になって久しくなりました。団や隊を守る一線におられるリーダーや役員諸兄には、最敬礼。大変ご苦勞様です。申し訳ありません。

ボーイスカウト活動は、時代や人が変われば、見方や考え方が違って当然。絶対にこれが正しいなどと言えることは、数少ないと思います。気張らず、無理をせず、細々でも継続していくことで、またボーイスカウト活動の良さが見直される機会が訪れると思っております。ボーイスカウト活動は、“青少年の健全育成運動”なのであります。

ボーイスカウトから遠ざかった生活ですが、現在も「BSのおきて」実践は心の支えです。今年69歳を迎えますが、いつまでも少年の心を持った爺イで居たいと願っております。

次の稿を、小千谷の海発正之さんにバトンタッチいたします。どうぞよろしく。